

## 1. 課題名

南極大型大気レーダーによる高級観測アルゴリズムと高速データ処理システムの開発

## 2. 代表者名

江尻 全機(国立極地研究所)

## 3. 研究成果の概要

平成 12 年度より極地研を中心として開発研究を進めている南極昭和基地大型大気レーダー計画(PANSY)では、大型大気レーダー（VHF ドップラーパルスレーダー）を用いて、高度 1～500km にわたる、対流圏、成層圏、中間圏、熱圏・電離圏を高精度高分解能で測定し、既存の観測器と合わせて、極域大気の総合研究を目指している。これまで、国内外の国際学術組織において、本プロジェクトの意義に関する議論を行うと共に、ハードウェアの開発および南極でのフェージビリティスタディを進めてきた。平成 16 年度新領域融合センターの本課題では、大型大気レーダーの観測アルゴリズムやデータ処理システム等のソフトウェア開発に重点を置き、どのような融合研究が可能であるかを検討した。研究会等において、グループ内の共同提案者もつ興味や問題意識、専門分野についての議論を行い、研究テーマの具体化を行った。その結果、平成 17 年度以降は、傘テーマ「機能と帰納：情報化時代をめざす科学的推論の形」(樋口知之代表)のサブテーマ「複雑システム理解と予測のためのアレイデータの帰納的解析手法開発」(和田誠代表)の中で本研究活動を継続発展させることで合意した。